

# エコツアーリズムの 推進体制 構築に向けたポイント集

---

# ねらい

---

- エコツーリズムの実践や推進事業の企画・立案への活用を想定

「エコツーリズム推進マニュアル」と併せて参照することが望ましい

- 環境省エコツーリズム推進マニュアル
  - <https://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/env/5policy/manual.html>

# 想定する利用者

---

- 新たに、エコツーリズム等の自然体験活動に取り組もうという発意があった地域の行政機関(市町村担当課、都道府県の出先機関など)、または観光推進組織(地域の観光協会、観光連盟、商工会議所など)の事業推進担当者

( 既にある程度取り組み実績があり、新たな展開にも事業を広げていきたい地域も含む)

# 想定する活用方法

---

- 関係者による自己学習用教材
- 関係者が集まって開催する勉強会での配付資料
- 関係者が外部から招聘するアドバイザーが関係者に対して講演する際の説明資料(例:エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業における講演会 等)

# 構成

---

- ポイント1 地域の人材の確認
- ポイント2 取組の目的、将来像、目標の共有
- ポイント3 コーディネート組織(商品開発・販売体制)の確立と維持
- ポイント4 推進体制を担う人材の能力開発
- ポイント5 エコツアーの販売方法
- 参考資料

# 事例索引

---

## ●POINT1 地域の人材の状況の確認

- 事例1: 地域の人材発掘・育成の仕組みづくり(山田町)
- 事例2: 町民大学との連携(洋野町)

## ●POINT2 取組の目的、将来像、目標の共有

- 事例3: 松川浦ガイドの会(相馬市松川浦地域)
- 事例4: 推進協議会を中心とした取組体制(飯能市)
- 事例5: 協議会事務局を中心とした取組体制(洋野町)
- 事例6: 既存のコーディネート組織を中心とした取組体制(久慈市)
- 事例7: 観光客とガイドの会を中心とした取組体制(気仙沼市唐桑地域)
- 事例8: まちづくり会社によるコーディネート(塩竈市浦戸諸島)
- 事例9: ガイドの会を中心とした取組体制(相馬市松川浦地域)

## ●POINT3 コーディネート組織(商品開発・販売体制)の確立と維持

- 事例10: 新たなコーディネート組織の検討(山田町)

## ●POINT4 推進体制を担う人材の能力開発

- 事例11: 地域の宝探しマップづくり(山田町)
- 事例12: 子どもの視点からみた島の宝ガイドブック作成(塩竈市浦戸諸島)
- 事例13: ガイド知識・技術向上のためのスノーシュー勉強会(久慈市)
- 事例14: 共通認識をつくるための先進地視察研修(塩竈市浦戸諸島)
- 事例15: 高いガイド技術にふれるための先進地視察研修(相馬市松川浦地域)
- 事例16: モニターツアーの積み重ね(気仙沼市唐桑地域)
- 事例17: 町民大学との連携(洋野町)【再掲】

## ●POINT5 エコツアーの販売方法

- 事例18: ウェブサイトでの販売(久慈市)
- 事例19: 旅行会社と連携し、交通とプログラムの支払を一本化(洋野町)
- 事例20: エコツアー付き宿泊プランの販売(気仙沼市唐桑地域)

# ポイント1 地域の人材の確認

---

# (1) 基本的な考え方

---

- 地域でエコツーリズムを推進していくためには、関係者が地域内での役割や求められる能力を理解し共有した上で、一体的に取り組む体制を構築していくことが望ましい。
- 特にエコツアーの販売を見据えて、「ツアー造成」「情報発信」「問合せ・申込受付」「ツアー実施」の各段階において、どこ(団体・組織)がその担い手となりうるかを想定しておくことが大切である(次表)。
- その際、役割分担のあり方は、行政主導、観光関連組織・団体主導、エコツアー事業者主導等、様々であり、地域の実情に合わせた対応を検討していくことが現実的、効果的である。

## エコツアーの造成から実施までの対応

(段階)	(団体・組織) (主な対応事項)	行政	観光関連組織・団体 (観光協会、旅館組合、商店会等)	エコツアー事業者	観光事業者 (宿泊施設、交通機関等)	その他事業者 (農林水産漁業者等)	地域住民 (婦人会等)
ツアー造成	地域資源の洗い出し ターゲットの想定 プログラムの作り込み 価格検討・決定 など						
情報発信	発地へのPR(SNS、HP、パブリシティ、宿泊予約サイトの活用、旅行会社商品への組込等) 着地でのPR(案内所等) 顧客への連絡(DM、メール) など						
問合せ・申込受付	予約受付(キャンセル対応) ガイド連絡 保険加入 など						
ツアー実施	実施 アンケート実施と共有 清算・支払 など						
その他	ガイドのスキルアップ(勉強会、視察など) 顧客データの管理 など						

多様な関係者による取組体制の構築  
役割分担のあり方は、地域の実情に  
合わせた対応を検討  
地域内に適任者が見あたらない場合、  
短期的には、当該能力を有し経験豊  
富な人材を公募で選任するなどの対  
応を検討。並行して、中長期的な視点  
に立ち、地域内での人材育成に取り  
組んでいくことが肝要

## (2) 地域関係者の連携と、それを調整する者

---

- 地域の魅力要素は、総じて小粒(B、C級)で散在していることが多い
  - ストーリーで紡いで商品化・情報発信しないと集客できない
- 紡ぐためには、地域内の多様な主体による連携体制が必要
  - 地域内の多様な主体: エコツアー事業者、宿泊事業者、飲食事業者、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、環境事業、まちづくり支援団体、地
- 連携体制を構築するためには、関係者間の意見の橋渡し役として、様々な案件を「調整する者」が必要
- また、エコツーリズム推進の準備段階では、エコツーリズムの目的、将来像、目標が地域内に浸透するよう努めたり、諸機関や関係者間の意向を把握することが必要となる

- 
- 調整者は、行政、観光協会、コーディネート組織(ポイント3で後述)が担っていることが多いが、エコツーリズム推進の準備段階では、行政からの発注業務として、コンサルタントが行うこともある。

(調整者に必要な能力)

- ✓ 公平さ: 多くの機関や人の意見を公平に聞くことができる
- ✓ フットワークとネットワーク: 地域の集まりに頻繁に顔を出すなど関係づくりに熱心で、情報収集能力もある
- ✓ 知識力: エコツーリズムに関する幅広い情報、フィールドや資源の特徴といった地域情報、旅行流通や旅行マーケット、法律や保険等に関する知識等
- ✓ 事務能力: 諸手続きを行う事務処理能力にたけている
- ✓ 説明能力: エコツーリズムの主旨を理解し、他人に説明ができる
- ✓ 資金調達能力: 必要な資金を収集することができる
- ✓ 発想力: 新しいアイデアを生み出すことができる

# 事例1: 地域の人材発掘・育成の仕組みづくり (岩手県山田町)

- 山田町では、長期的な視点で、地域の人材を発掘、育成することを目指して、有志による自立的な団体として「やまだくじら大学(仮)」を設立することとした(2016年4月1日設立)。
- まずは、取組の輪を広げるため、山田町に関連する「部活」を年度内に複数立ち上げて、100人の新しい仲間を作る(発掘する)ことを目指すこととしている。



## 事例2：町民大学との連携（岩手県洋野町）

- 洋野町では、洋野町民の生涯学習推進を目的としたひろの町民大学と連携し、エコツアーを実施している
- 町民大学との連携は、エコツアーの実践機会の創出であるとともに、新たなガイドの発掘、町民への情報発信の機会にもなっている
- ツアー実施前には実際のフィールドで具体的なシミュレーションを行い、内容、解説位置、安全管理は十分か、時間通りに終わられるか、人手不足な部分はないか、参加者にとってハードルが高すぎる部分はないか、などを確認するようにしている



# ポイント2

取組の目的、将来像、  
目標の共有

---

# (1) 目的、将来像、目標の共有の意義

---

- 地域がエコツーリズムを推進するときの一般的課題
  - 取組の輪が拡大せず、部分的な取組に留まっている
    - 多様な地域魅力(自然、生活文化、歴史など)を活かしたいが、関係者・組織の参画が得られない
    - 取組(ツアー、イベントを含む活動など)を通じた経済波及効果を期待しているが、その仕組みが構築できない
  - 取組が行政依存であり、主体性が育まれない
    - 関係者による主体的活動を期待しているが、行政依存から脱却できない
- これらを解決する上で、地域がエコツーリズムに取り組む目的、将来像、目標の明確化、共有化が必要である
- ここで、特に行政機関に期待されることは、コアメンバー等を参集して、検討の場・機会を設けることである

## ( 2 ) 検討の場の設置

---

- 取組の中心となることが期待される人々(コアメンバー等)が中心となって検討する
- 検討の場・機会の設定は、体験型観光のコーディネート機能を持つ組織や、行政機関が行うことが想定される

## (3) 目的、将来像、目標の検討

---

### 共通課題の整理

- 共通認識を調整するため、最初に共通課題を洗い出し、整理する
  - 共通課題の整理は、行政が支援
  - 観光関連統計や旅行者動向調査結果、経済指標などの統計データも活用
  - 短期(1、2年程度)、中長期(3年以上程度)
  - 達成可否が分かるように、目標に数値を入れる

---

## 目的、将来像、目標の設定

- 地域がエコツーリズムに取り組む目的を設定する
  - 「公益性」、「営利性」の両方の視点を含むことが望ましい(地域資源や人材の状況、取組の熟度等でバランスが変わる)
    - 公益性:地域活性化、地域住民が自らの地域に誇りを持てるようになること
    - 営利性:エコツアーの開発・販売等を通じて、各事業者の利益や地域経済振興に貢献すること
  - 目的を達成したときの地域の将来像を文章化する
  - 具体的な目標を設定する

## 目的、将来像、目標の共有

- 目的、将来像、目標を明文化し、公表する
  - 公表の場は、多くの方が関心を持ちやすい講演会、広報など
  - 初期は、地域内のエコツーリズム関係者等の間のみでの共有でも良い

# 事例3：松川浦ガイドの会

(福島県相馬市松川浦地域)

- 相馬市松川浦地域では、松川浦の旅館や飲食店の旦那・若旦那が中心となって、「松川浦ガイドの会」を立ち上げて、行政や観光協会と協力・連携しながら、エコツーリズムに取り組んでいる

- 松川浦ガイドの会の理念

- ✓ 来た人が笑顔になれる松川浦

- 松川浦ガイドの会のビジョン

- ✓ 子供のゲームスイッチを切らせるような楽しい松川浦にする！

- 松川浦ガイドの会の目的

- ✓ 松川浦を訪れるお客様が、松川浦をよく知り、より楽しめるように、ツアー・プログラムの適切な提供や、ガイド技術の維持・向上などにより、松川浦の魅力を向上させ、松川浦の振興を図る。(松川浦ガイドの会 会則 第2条)



写真上：定例会(毎月1回)  
下：夏のエコツアーの様子

# (4) 目的、将来像、目標の実現に向けた取組体制の構築

---

- 次項で挙げる「コーディネート組織(商品開発・販売体制)」の確立が必要( 詳細はポイント3で記述)
- エコツーリズムの準備段階では、ガイドが組織化されていないことが多く、ツアーの質の向上、情報発信、問い合わせ、雨天時の代替プログラムの準備や、ガイド急病時の代打の手配等、コーディネートする組織が必要となる
- コーディネート組織が「営利性」を軸としている場合、別途、「公益性」の視点から取組体制を構築することも想定

# 事例4：推進協議会を中心とした取組体制（埼玉県飯能市）

---

- 埼玉県飯能市では、「地域に住む人が、地域の言葉で、地域をガイドする」ことをモットーに推進協議会で仕組みづくりを進めた。
- 市民に飯能市の魅力を学んでもらうために「オープンカレッジ」という場を作った。ここでガイド技術も併せて教えている。
- 修了者には次のステップとして、実際にエコツアーを企画・実施することを目指す「活動市民の会」への参加を呼び掛けている（入会は任意）。
- 「活動市民の会」を含む各エコツアー実施者は、エコツアーの企画を考え、協議会に提案する。
- 協議会はエコツアー実施者にアドバイスを行い、質を高めた上で、募集をかける。申込窓口は、各エコツアー実施者が担当。
- エコツアー実施後は、参加者アンケートなどでツアーをふりかえり、次回に向けて改善していく、というサイクル。

# 事例：推進協議会を中心とした取組体制(埼玉県飯能市)



写真：エコツーリズムのまち・飯能ホームページより

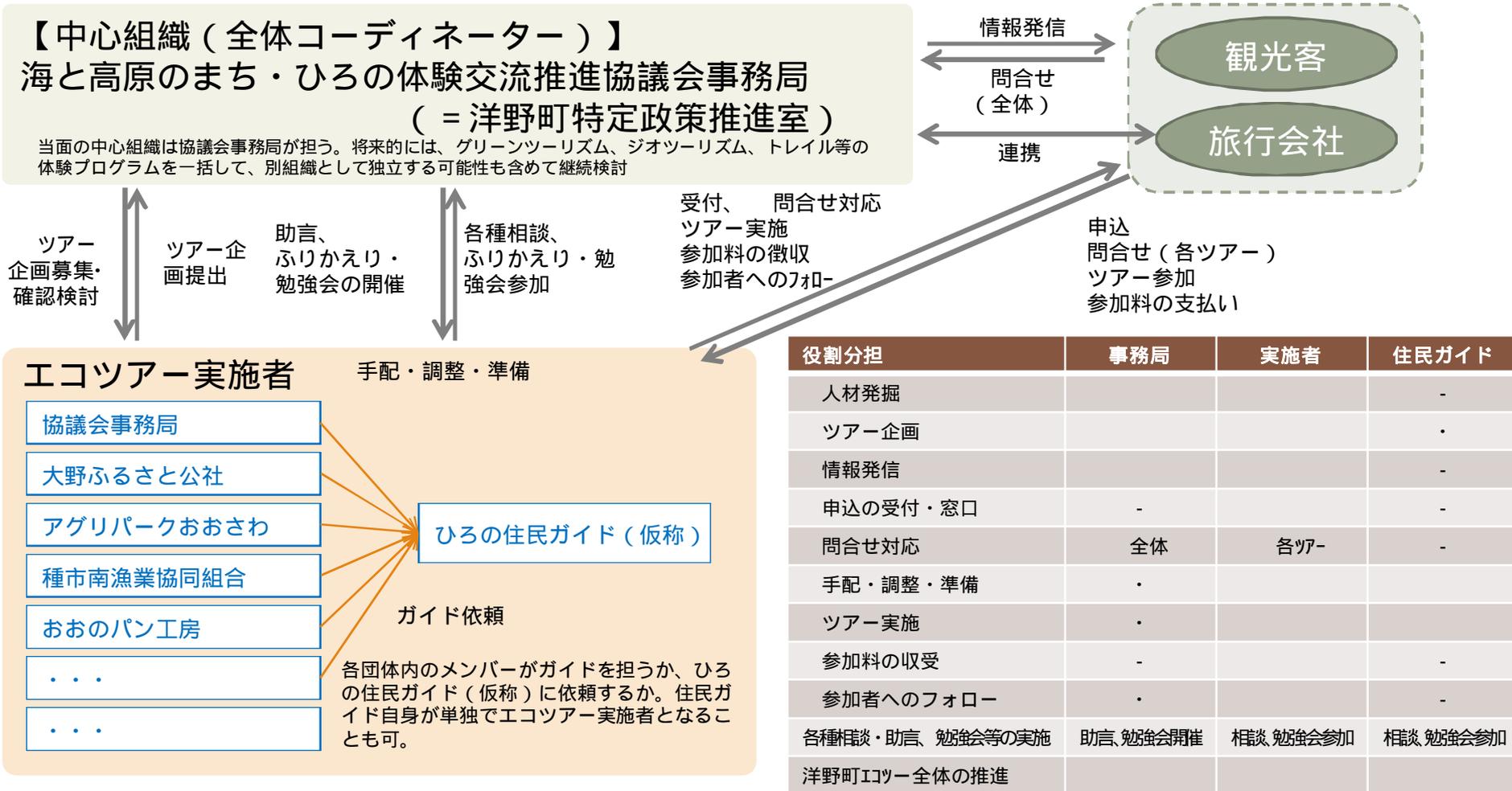
# 事例5：協議会事務局を 中心とした取組体制(岩手県洋野町)

---

- 洋野町では、海と高原のまち・ひろの体験交流推進協議会事務局( = 洋野町特定政策推進室)がコーディネート役を担い、地域内事業者や住民と連携しながら、エコツーリズムに取り組んでいる
- 「ツアー造成」は、協議会事務局ならびエコツアー実施者が担当。実施可能な各団体が、主体的にエコツアーを企画・実施する。協議会事務局は、必要に応じて助言・サポートを行う
- 「情報発信」は協議会事務局が一括して行う。各エコツアー実施者が個別に情報発信することも可能
- 「問い合わせ・申込受付」および「ツアー実施」は、各エコツアー実施者が担当する

2016年3月31日時点案

# 事例：協議会事務局を中心とした取組体制（洋野町）



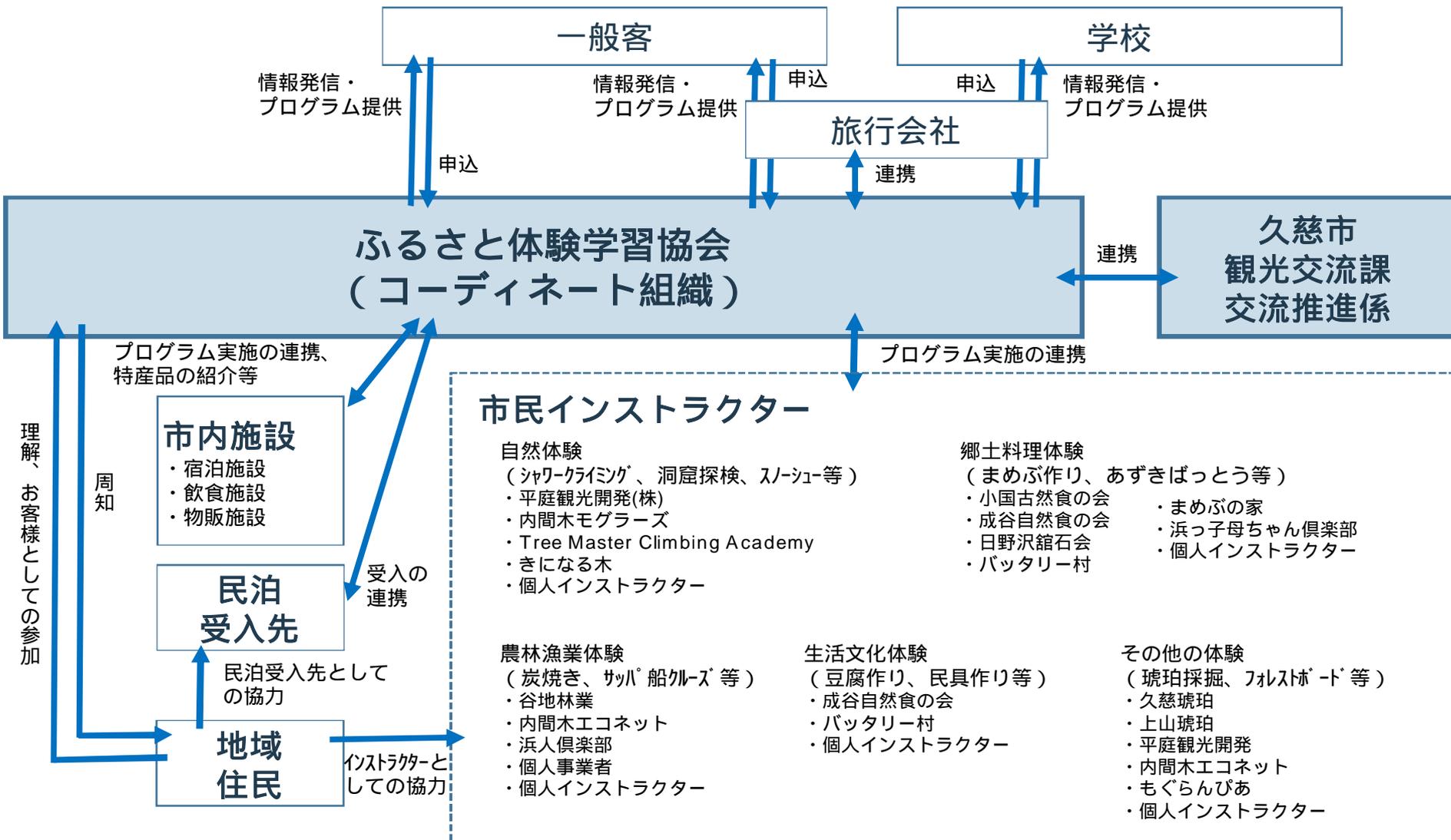
2016年3月31日時点（案）

# 事例6：既存のコーディネート組織を中心とした取組体制(岩手県久慈市)

---

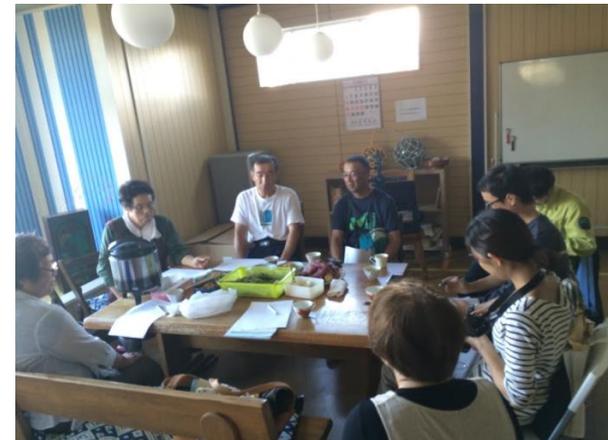
- 久慈市では、交流人口の拡大による地域の観光振興と地域経済の活性化を目的とした教育旅行の受入団体として、平成18年度にふるさと体験学習協会を設立(平成12年度から合併前の旧山形村が体験型教育旅行の受入開始)
- 東日本大震災を機に、教育旅行だけでなく、一般客へのツアー販売体制を構築
- ふるさと体験学習協会は、久慈市観光交流課交流促進係と密に連携しながら、ツアー造成から情報発信、申込受付、問い合わせ対応、手配・調整・準備、ツアー実施まで、一元的な受入窓口を担っている
- ツアー実施に際しては、協会職員及び市職員その他、多くの地域住民が市民インストラクターとして活躍している
- さらに、宿泊、飲食、物販などの市内施設とは、プログラム実施や、特産品の紹介等、様々な場面で連携を図っている

# 事例：ふるさと体験学習協会を中心とした取組体制（岩手県久慈市）



# 事例7: 観光協会とガイドの会を中心とした取組体制 (宮城県気仙沼市唐桑地域)

- 気仙沼市唐桑地域では、地元ガイドの有志により「唐桑エコツアーガイドの会」が組織され、活動している
- 唐桑町観光協会をコーディネーターとして、月1回の定例会の他、勉強会や自主的なエコツアーの企画・開発・実施などを行っている



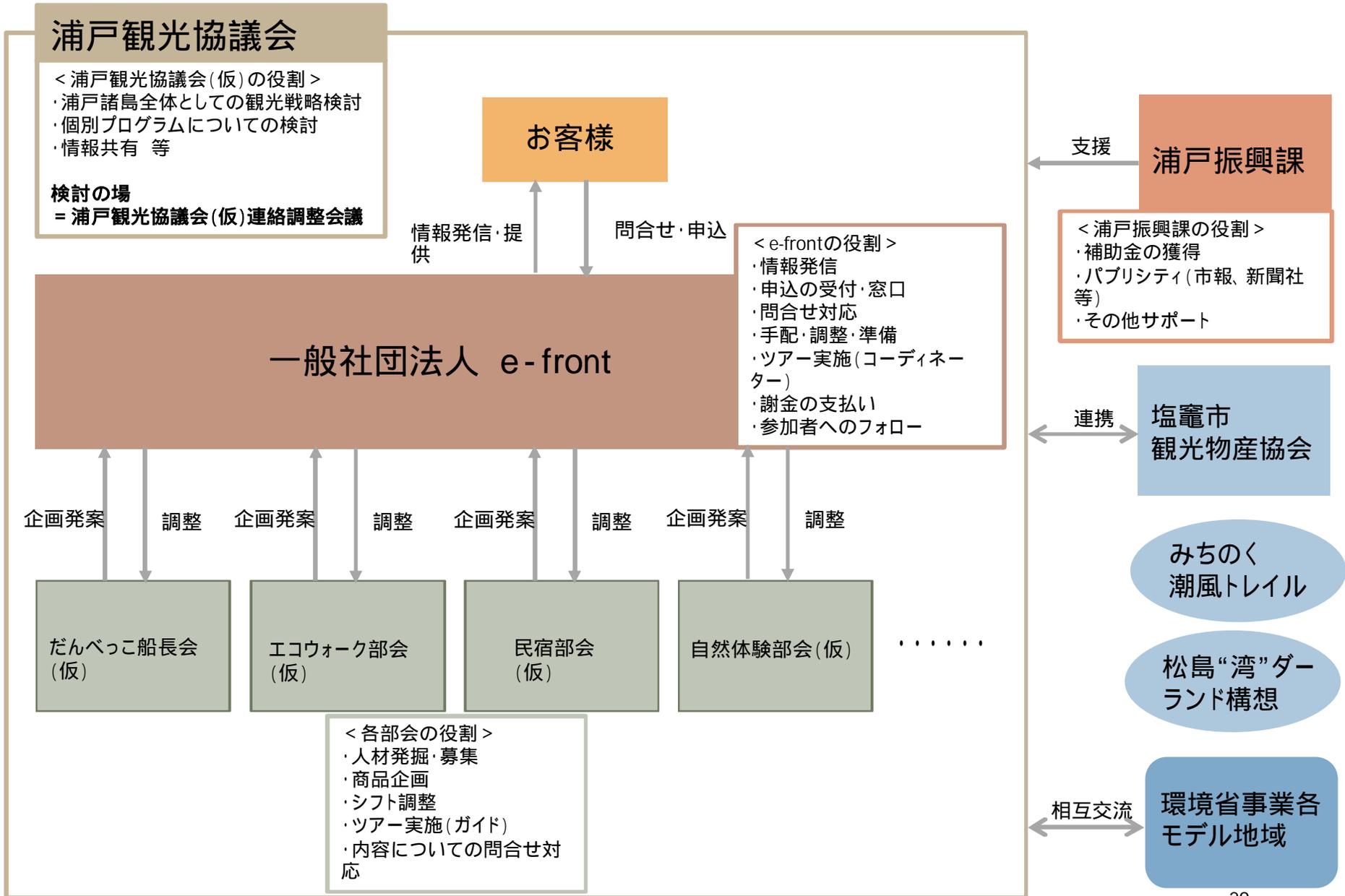
写真上: 定例会 (毎月第1水曜日)  
下: 勉強会 (地域の観光資源調査)

# 事例8:まちづくり会社による コーディネート(宮城県塩竈市浦戸諸島)

---

- 塩竈市浦戸諸島では、ガイドや民宿からなる浦戸観光協議会が設立されている
- この協議会はまちづくり会社((一社)e-front)がコーディネートしており、情報発信、申込の受付・窓口、問合せ対応、手配・調整・準備、ガイドへの謝金の支払い、参加者へのフォローといった役割を担う
- e-frontはツアー実施に伴う収入の他、市の施設の管理運営や事業受託により収入を得ている

# 事例：まちづくり会社によるコーディネート(宮城県塩竈市浦戸諸島)



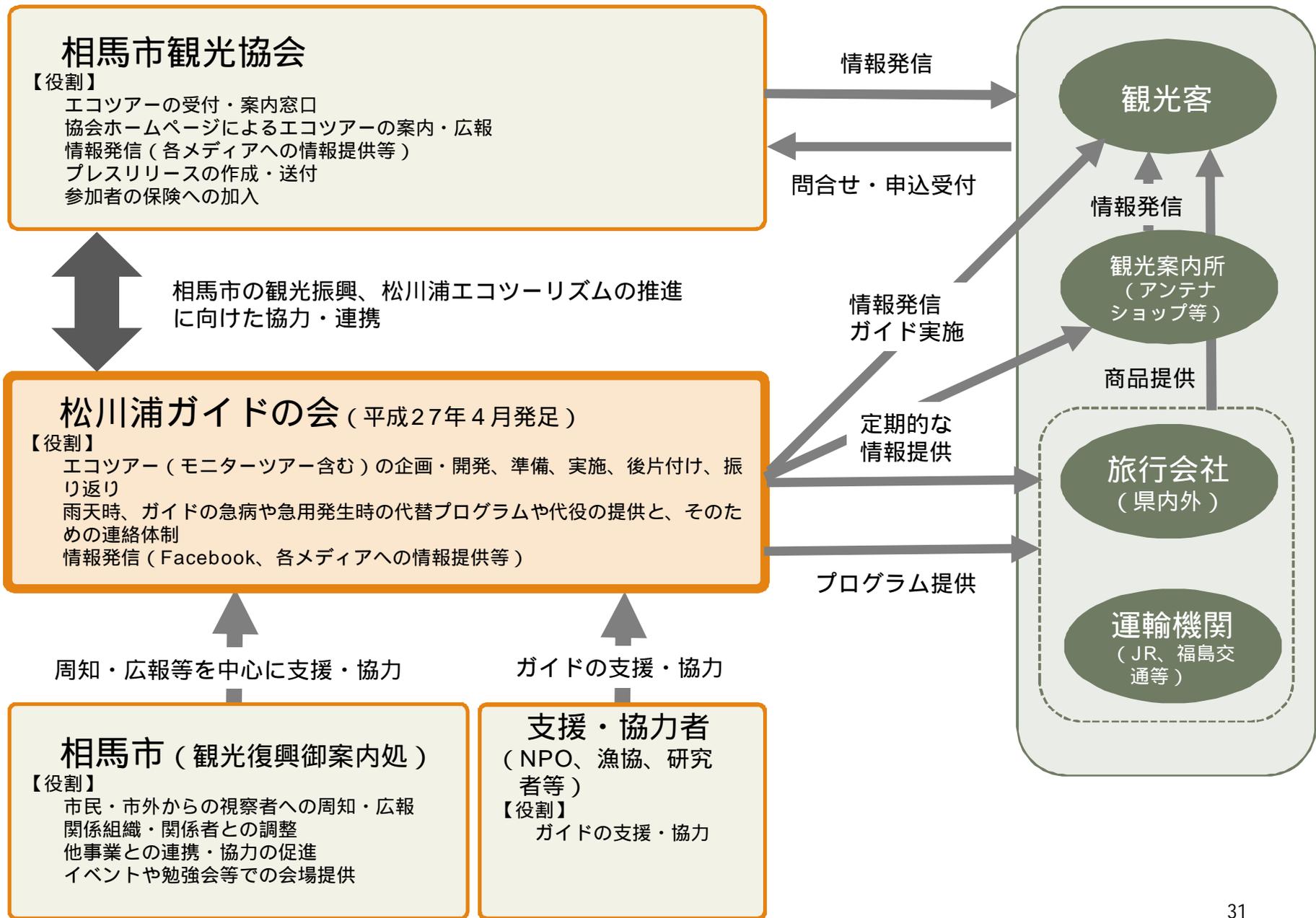
# 事例9: ガイドの会を中心とした体制

(福島県相馬市松川浦地域)

---

- 相馬市松川浦地域では、松川浦の旅館や飲食店の旦那・若旦那が中心となって、「松川浦ガイドの会」を立ち上げて、行政や観光協会と協力・連携しながら、エコツーリズムに取り組んでいる。
- 「ツアー造成」は、松川浦ガイドの会が担当。プログラムによっては、漁業者などの支援を得て作り込みを行っている。
- 「情報発信」では、松川浦ガイドの会は、会のSNS及びHP、エコツアー紹介サイトなど、インターネット上での情報発信を中心に、チラシの作成と都内アンテナショップ等への配付、顧客への案内などを行っている。
- 相馬市観光協会は、協会HPへの掲載、マスコミ等へのリリースなど、広く対外的な情報発信を行っている。
- 「問合せ・申込受付」は、松川浦ガイドの会と密な連携をとりながら、相馬市観光協会が担っている。
- 「ツアー実施」は、松川浦ガイドの会が担当し、相馬市や観光協会は、必要に応じて支援を行っている。

# 事例：「松川浦エコツアーリズム推進体制」(2015年度末現在)



ポイント3

コーディネート組織(商品開発・販売体制)の  
確立と維持

---

# (1) コーディネート組織(商品開発・販売体制)の必要性

---

- エコツーリズムに取り組む多くの地域では、商品開発・販売体制が脆弱であることが多く、改めて検討が必要になることが多い
- エコツアープログラムが旅行商品として「売れ続ける」ことが、地域の関係者のモチベーションの維持のためにも必要

## (2) 商品開発・販売の中核となるコーディネート組織に求める機能

---

ツアー造成：エコツアー（観光商品）の企画開発など

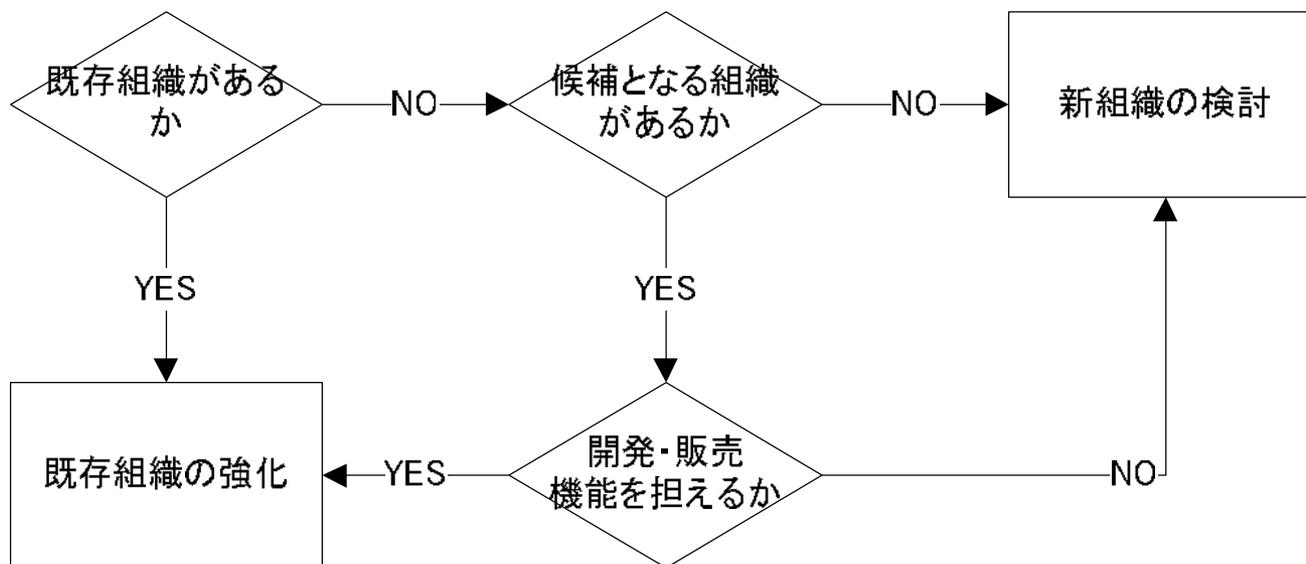
情報発信：営業、パブリシティなど

問い合わせ・申込受付：旅行者や旅行会社との窓口など

ツアー実施：アンケートの実施と共有など

# (3) 商品開発・販売の中核となる コーディネーター組織の確立

- 商品開発・販売体制の確立にあたり、まずは既存組織の有無を確認し、既存組織が担える可能性を検討する



---

## ● 既存組織による対応

- 既存の組織がある場合や、その他の既存組織が担い得る場合は、既存組織を中心に、機能の拡充や組織の経営面での安定化を図る・・・久慈市、洋野町、気仙沼市、塩竈

## ● 新組織による対応

- 既存の組織が無い場合や、既存組織が担うことが難しい場合は、新組織の立ち上げを検討する
- 新組織を立ち上げる場合、以下のような方法が想定される
  - 新たに人材を確保し、その任にあたる(この場合、行政が当面の人件費を負担する等が必要)・・・山田町
  - 実務関係者等(ガイドなど)が、連携してその任にあたる・・・相馬市
  - 行政が持続的にその任にあたる・・・(飯能市)

## ● スタートアップ時は、特に資金不足が懸念されるため、行政による支援等が必要

# 事例10: 新たなコーディネート組織の検討

(岩手県山田町)

- 山田町では、モデルツアーを複数回実施する中で、エコツアーの商品開発・販売の中核となる組織の必要性が共有された
- そこで、実務関係者を中心に、視察会や検討会を通じて、商品開発・販売を行う上での中核となる組織の役割を整理した
- その上で、既存体制の実態などを勘案し、新たにコーディネーターを公募するとともに、関係者による協議会を設立することとした。



視察、検討を踏まえて、山田町のコーディネート組織機能、コーディネーターの人物像の望ましい姿・条件を整理

## コーディネート組織像

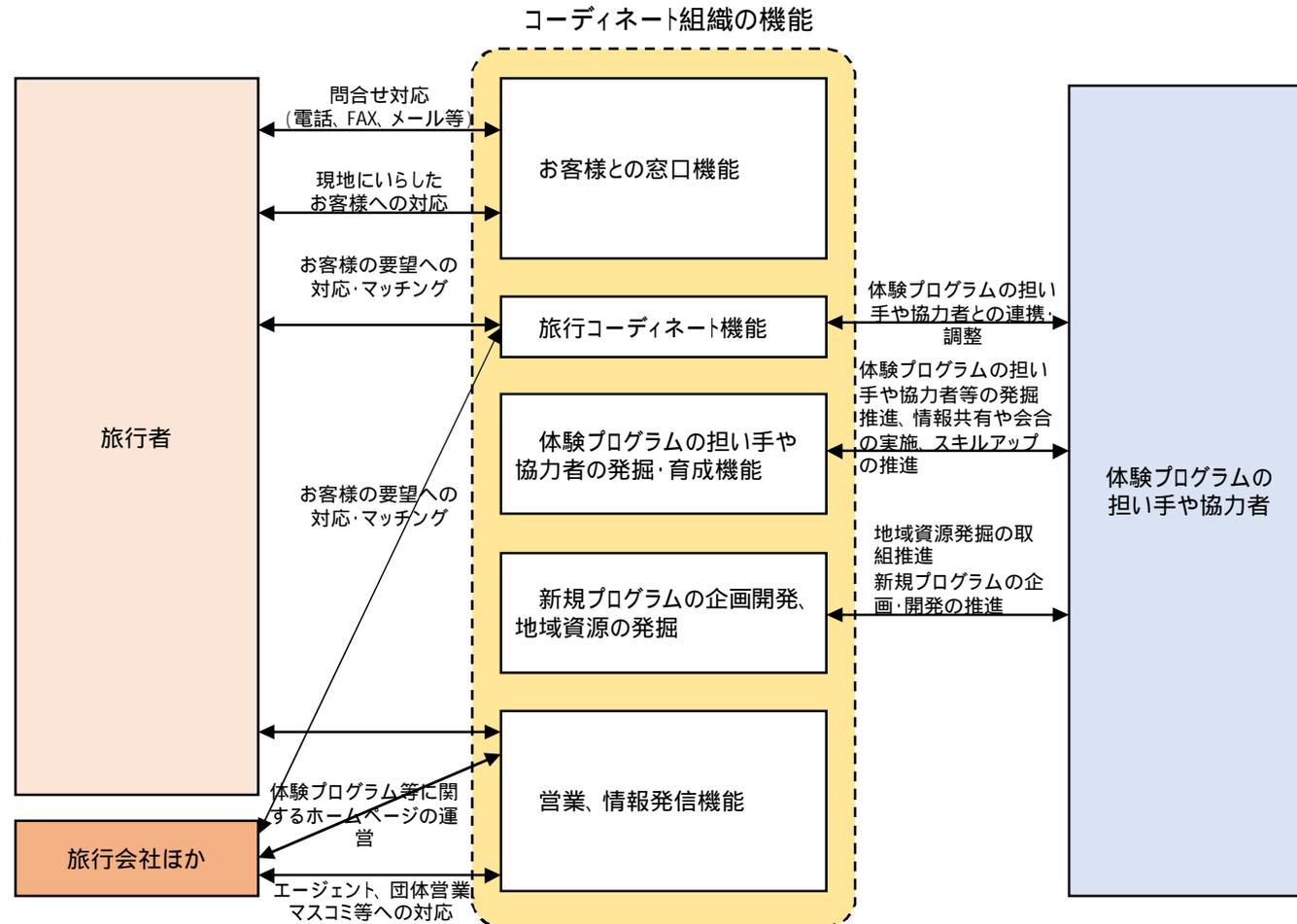
- 望ましい山田町のコーディネート組織の機能(右図)
- コーディネート組織に必要な条件は、活動拠点、活動環境、活動資金、人材。

## コーディネーター像

- 熱意がある
- 地域や関係者を動かす能力がある
- 商品を作って売る能力がある
- 事務処理の能力がある

## 連携体制

- 関係者等による協議体を組織する  
(「(仮称)体験観光活動協議会」)



## (4) コーディネート組織の維持

---

- 商品開発・販売体制の活動資金が必要
  - 人件費(コーディネーター、事務局員他)
  - 事務所経費(家賃、高熱水道費、車のリース、駐車場代、通信費(電話、FAX、パソコン他)、机・椅子・パソコン、コピー代、他)
- 活動費(旅費、会議費、事業費、他)
- 財源の安定化には複数の財源を組み合わせるべき
  - エコツアーの販売手数料収入 【規模:     安定:     初期投資:     】
  - 独自物産商品の開発・販売収入【規模:     安定:     初期投資:     】
  - 行政施設の指定管理料収入     【規模:     安定:     初期投資:     】
  - 行政の委託調査事業等収入     【規模: ?   安定:     初期投資: ?】

# ポイント4

推進体制を担う人材の  
能力開発

---

# (1) 各種研修機会を通じた能力向上

---

地域資源(地域のお宝)に関する勉強会、現地見学、調査、ワークショップ

## ●目的と効果

- 自分たちの地域にある資源を改めて見直す
- 地域資源に対する「視点」を学ぶ
- ツアー造成・実施に必要な知識の他、背景となる「地域に関する深い理解」、「地域に対する愛着や誇りの醸成」に繋がる

## ●ポイント

- 地元の人だけではなく、周辺地域や遠方の人もメンバーに加える
- 外部講師を招聘する場合、地域資源の掘り起こしやまちあるきの実践者を選んで、地元住民に気づきを促す
- 見つけた資源を地図やフェノロジーカレンダー(季節暦)などに整理し、地域関係者間でその成果を共有する

# 事例11：地域の宝探しマップづくり (岩手県山田町)

- 山田町では、高橋美江氏(グラフィックデザイナー/絵地図師/散歩屋)を招聘し、座学とフィールドワークによる地域資源の掘り起こしを行った
- 座学では、まちの中に隠れている魅力のを見つけ方、まち歩きの楽しみ方・楽しませ方を学んだ
- フィールドワークでは、地域のお宝探しとまとめ作業(絵地図づくり)を通じて、魅力のを見つけ方を実践した
- 検討会を通して、自地域にある資源を改めて見直すきっかけとなるとともに、魅力のを見つけ方も学んだ



# 事例12: 島の宝ガイドブック作成

(宮城県塩竈市浦戸諸島)

- 浦戸諸島では、取組当初、そもそもエコツアーでどのようなことをガイドするのか、わからなかった
- そこで、島外の人から見た島の面白さという切り口で島の魅力をまとめた「うらとのウラガワをのぞこう！」を作成し、全島民に配布した
- この冊子の作成は、「ほんの少し見方を変えると浦戸諸島はもっと面白くなる!」「島の日常が島外の人にとっては新鮮なもの」ということを、島民自身が気づききっかけとなった



---

## 講師を招聘した勉強会や講演会、実地研修

### ●目的と効果

- エコツーリズムに取り組む気運を醸成する
- エコツーリズムに取り組むにあたり、エコツアーの具体像を理解する
- エコツアーに関する知識や技術を得る
- 自地域が抱える課題や問題について、他地域での取組を学ぶ

### ●ポイント

- 取組段階や課題に応じて、適切なテーマの講師を選定する
- 地域関係者が参加しやすい時間帯に設定する
- 終了後、勉強会等で学んだことや、学んだことを自地域での取組に活かすアイデアなどを地域関係者間で共有する(アンケートの実施、意見交換会等)

# 事例13: ガイド知識・技術向上のための スノーシュー勉強会 (岩手県久慈市)

- 久慈市では、高野賢一氏(なべくら高原・森の家 支配人)を招聘し、スノーシュープログラムについて、情報発信・販売方法等を学ぶこと、プログラムの課題の指摘や改善のための助言を受けることを目的として、勉強会を実施した
- 現場の最前線で活躍している実践者からの経験に基づいた講義や、実地でのガイド指導を受けたことは、知識・技術の向上に寄与しただけでなく、スタッフにとって大きな刺激となった



---

## 他地域への視察研修(先進地、同じ目的で取り組む地域等)

### ●目的と効果

- エコツーリズムに取り組むにあたり、エコツアーの具体像を理解する
- 地域資源の活用方法に対するアイデアや問題意識を持つ機会とする
- 自地域が抱える課題や問題等について、先進地の取組を学ぶ
- 地域関係者が同じ体験を共有することで、メンバー間のコミュニケーションの円滑化を図るとともに、考え方のベースとなる共通認識をつくる

### ●ポイント

- 研修で見てきたいこと、学びたいことを予め整理し、地域関係者で共有する(研修に参加できない人の意見も取り入れる)
- 地域のエコツーリズムを担う中核メンバーはなるべく皆で参加する。今後巻き込みたい人材も研修メンバーに加える
- 研修後、視察研修で学んだことや、学んだことを自地域での取組に活かすアイデアなどを地域関係者間で共有する(ふりかえりシートの作成、意見交換会での発表や共有)

# 事例14：共通認識をつくるための 先進地視察研修（宮城県塩竈市浦戸諸島）

- 塩竈市浦戸諸島では、岩手県田野畑村（NPO法人体験村・たのはたネットワーク）への先進地視察を行った
- 研修には、取組当時の地元関係者がほぼ全員参加。さらに、担当行政だけでなく、今後連携する可能性のある部署の担当者も一緒に参加した
- 全員が同じものを見てきたため、地域関係者間で共通認識ができた。今でも、この視察での体験が浦戸におけるエコツアーの考え方のベースとなっている



# 事例15: 高いガイド技術にふれるための 先進地視察研修 (福島県相馬市松川浦地域)

- 相馬市松川浦では、山梨県早川町(南アルプス生態邑)への先進地視察を行った
- 研修に参加したのは、かねてからガイド経験があるメンバーであったが、レベルの高いガイド技術にふれ、ガイド技術の研鑽意欲がさらに醸成された
- 濃密な時間をともに過ごすことで、メンバー間で様々な意見を交換しあい、地域内の結束感がより強まった



## (2) 実践の繰り返しを通じた能力向上(OJT)

---

- エコツアーの企画、情報発信、実施、評価での実践(モニターツアー、練習会等)
  - 目的と効果
    - 実践を積み重ね、ガイド知識や技術を確かなものにしていく
    - 実践を通して課題を抽出し、ツアーの改善を図る(内容だけでなく、事前準備や情報発信などの過程も含め)
    - 活躍の機会を定期的に持つことで、地域関係者のモチベーションを維持する
  - ポイント
    - 実践の機会(モニターツアー、練習会、実践的なエコツアー、地域住民向けの体験会、視察の受入等)を定期的に設定する
    - エコツアーに取り組んでいる人全員が活躍できる機会をつくる(エコツアー週間、エコツアーイベント等)
    - 情報発信もトライアンドエラー。どのような発信方法、どのような内容だと集客しやすいのか、試行錯誤を重ねる
    - ツアー実施前には、必ず練習会や下見を行う
    - アンケートを行って参加者の反応や評価を得ることで、次のツアーに向けた改善材料とする。結果は関係者間で必ず共有する
    - 重要ポイントをまとめたチェックリスト等を作成し、ガイド自身でもふりかえりを行う
    - その人の適性に合わせた適切な役割分担をする(ガイド以外にも、HP作成やFacebook更新などの情報発信、写真撮影、など幅広い役割がある)

# 事例16: モニターツアーの積み重ね

(宮城県気仙沼市唐桑地域)

- 気仙沼市唐桑地区では、これまで学んだポイントやモニターツアー等で判明した課題などを改善するため、また、商品化前の実践の機会として、商品化をイメージした予行演習として、モニターツアーを複数回行った
- 定期的なモニターツアーを積み重ねることで、自信をもって商品として販売できるようになった
- 複数のツアーを集めた「唐桑・特撰エコツアー体験会」として開催することで、ガイド全員が活躍できる場をつくり、モチベーションを維持することにも留意した



# 事例17：町民大学との連携(岩手県洋野町)【再掲】

- 洋野町では、洋野町民の生涯学習推進を目的としたひろの町民大学と連携し、エコツアーを実施している
- 町民大学との連携は、エコツアーの実践機会の創出であるとともに、新たなガイドの発掘、町民への情報発信の機会にもなっている
- ツアー実施前には実際のフィールドで具体的なシミュレーションを行い、内容、解説位置、安全管理は十分か、時間通りに終わられるか、人手不足な部分はないか、参加者にとってハードルが高すぎる部分はないか、などを確認するようにしている



# エコツアーガイドに求められる能力と能力向上機会の整理

	深い知識	地域資源に関する	企画能力	プログラムの	効果的に情報を伝える能力	参加者を 楽しませる能力	ホスピタリティ	安全管理	行程管理・グループ コントロール	自然資源・文化資源 への配慮	関連法令に関する 知識
(1) 各種研修機会を通じた能力向上	他地域への視察研修	-									-
	講師を招聘した勉強会や講演会、実地研修	-									
	地域資源に関する勉強会、現地見学、調査等		-	-	-	-	-	-	-	-	-
(2) 実践の繰り返しを通じた能力向上 (OJT)	エコツアーの企画、情報発信、実施、評価での実践	-									

# コーディネーター組織に求められる能力と能力向上機会の整理

		公平さ	フットワークとネットワーク	知識力	事務能力	説明能力	資金調達能力	発想力
(1) 各種研修機会を通じた能力向上	他地域への視察研修	-			-		-	
	講師を招聘した勉強会や講演会、実地研修	-			-		-	
	地域資源に関する勉強会、現地見学、調査等	-			-		-	
(2) 実践の繰り返しを通じた能力向上 (OJT)	エコツアーの企画、情報発信、実施、評価での実践							

# ポイント5 エコツアーの販売方法

---

# (1) 直接販売

---

- 地域のエコツアーの企画者・実施者や観光推進組織(観光協会等)が、自ら市場に向けて商品内容と参加条件などの情報を発信し、直接問い合わせや申し込みを受け付ける方法
- 情報発信については、観光推進組織など、一元的に行う仕組みが作れると、参加者にとっての利便性が増す
- 情報発信
  - ダイレクトメール/メールマガジン
  - ウェブサイト
  - チラシ  
(常時催行しているもの/イベントや季節限定で催行しているもの)
  - ブログ
  - SNS(Facebook、twitter)
  - パブリシティ(プレスリリースの送付)
  - 展示会やイベントへの出展

---

## ● 問い合わせ対応・申し込み受付

- 電話
- ファクス
- メール
- 予約サイト
  - 自前の予約サイト
    - 業者に委託して作成
    - グーグルフォーム、無料の受付フォームを活用して作成
  - 外部の予約サイト(じゃらん遊び・体験予約サイト、アソビュー など)

---

## ●留意点

- 問い合わせ対応・申し込み受付については、観光推進組織(観光協会等)など、一元的に行う仕組みが作れると、参加者にとっての利便性が増すが、個別に対応した方がきめ細かな対応が可能となるという特徴もある
- 上記のような取り組みをモニターツアーなどの形で繰り返し実践することで、関係者の能力向上を図るとともに、地域の実状に合った方法を見出していく
- 先進地研修のかたちで、エコツーリズム(あるいは現地ツアーの販売)に関する先進地の取り組みに学ぶことも有効である

# 事例18: ウェブサイトでの販売(岩手県久慈市)

- 久慈市ふるさと体験学習協会では、ホームページやFacebookを作成し、プログラムの情報発信を行っている(問い合わせ対応・申し込み受付は電話)
- ホームページでは、ストック情報を(プログラム内容、料金等)を掲載
- Facebookではフロー情報を掲載。プログラムの様子が伝わるよう写真や動画を中心に、なるべく目にふれるよう頻度高く更新している



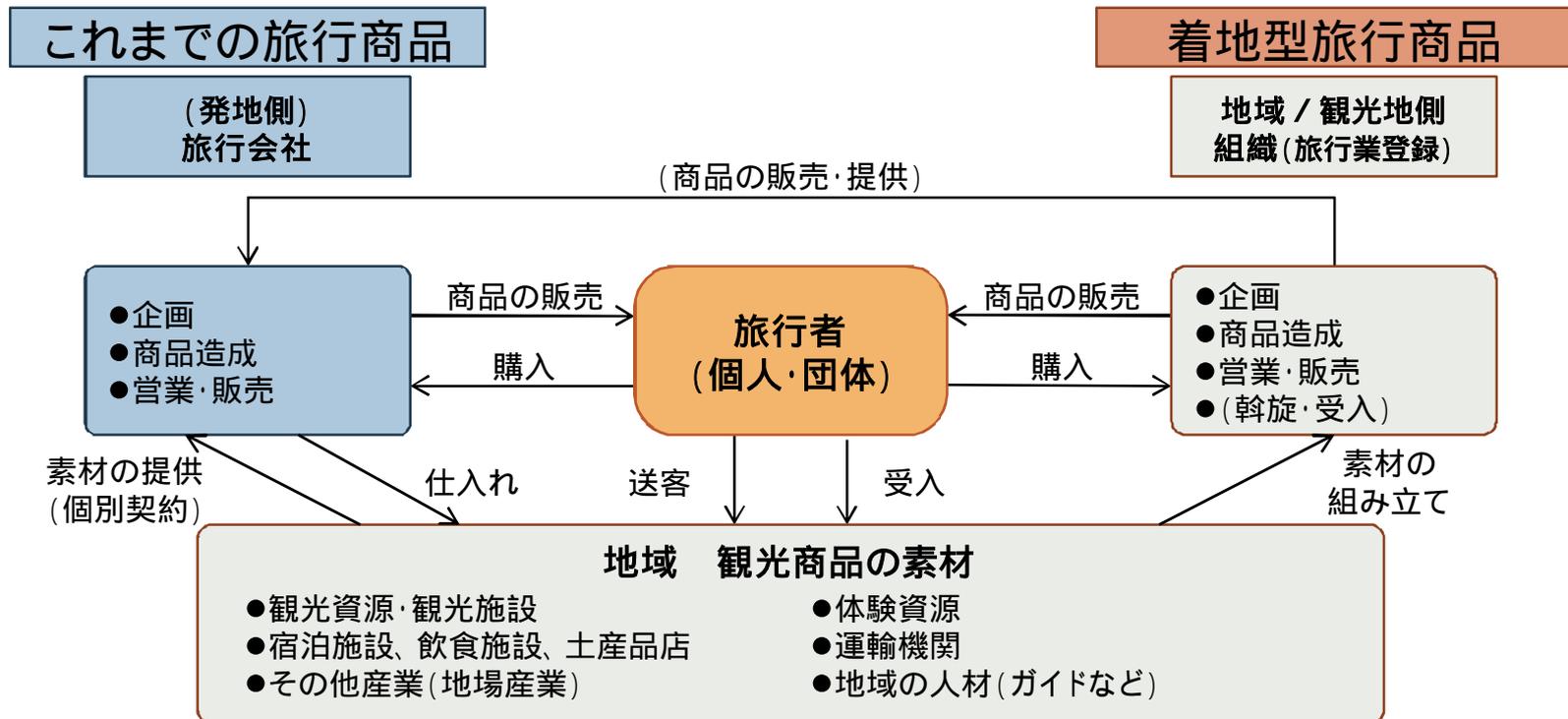
出典: 久慈市ふるさと体験学習協会HP  
<http://www.kuji-taikun.jp/>



出典: 久慈市ふるさと体験学習協会Facebook  
<https://www.facebook.com/kuji.taikun/>

## (2) 間接販売(旅行会社との連携)

- 販売代理者(主に旅行会社)にエコツアーを商品として卸し、一連の販売行為を委託する方法



---

## ● 間接販売(メリット)

- 数多くの消費者と接する経験や他地域の動向なども踏まえた助言を得ることができる
- 早い時期に販売量の見込みを立てることができる
- マーケットの近くに販売窓口(店)を持つことができ、さらに旅行会社所属の販売員によるセールス活動が期待できる
- 大手旅行会社との提携により全国規模の販売網を獲得することができる
- 参加者とその都度の金銭のやりとりを行わなくて済む
- 無連絡不参加などのリスクは軽減し、キャンセルとなった場合にも規定の取り消し料を確実に得ることができる
- 旅行会社の窓口で商品を販売する時に、商品内容や参加条件などが説明されるため、参加者の旅行出発前の安心感が醸成される
- 実績のある旅行会社が代理で販売することによって、商品やその事業体に対する信用力が付与される

---

## ● 間接販売(デメリット)

- 全体の旅行行程上、前後の立ち寄り先などとのバランスにより、内容や所要時間を調整せざるを得ないこともある
- 季節の移り変わりの見込み違いや突発的な都合などにより商品内容に変更の必要性が生じた場合の臨機応変さに課題がある
- 対価として相応の手数料を支払うことが必要となる
- 旅行会社の全ての販売員が、地域発観光プログラムの内容を熟知し、参加希望者に対してその場で詳細情報を提供することは難しい
- 各旅行会社の基準に応じた経営管理、安全対策を含めた商品管理が求められる

---

## ●留意点

- 旅行会社への営業訪問や説明会、見本市への参加など、旅行会社との接点を持つことで、担当者との関係を構築する。こういった機会を設ける際には行政の役割が期待される
- 旅行会社と関係ができれば、担当者を招聘して実際にエコツアーに参加してもらうなどにより地域の実情とツアー内容を知ってもらうことで商品化につながることも想定される

# 事例19：旅行会社と連携し、交通とプログラムを支払を一本化(岩手県洋野町)

- 洋野町では、宿泊やバス移動が含まれるツアーを企画した。
- そこで、地元旅行会社である(株)岩手県北観光に協力を依頼し、参加者募集・支払、保険加入を担っていただき、実施した

宿泊や運送等関連サービスを伴うツアーを企画実施する場合は、旅行業免許が必要となる

環境省主催 平成26年度 復興エコツアーズ推進モデル事業

北三陸・洋野町  
食べよう!旬の鮭 & のんびり里山散策ツアー  
モニターツアー参加者募集!

新栄丸

日程  
2014年11月29日(土)~30日(日)

参加費  
お一人様 5000円(税込)

発着場所  
盛岡駅西口バスターミナル

募集人数  
先着15名(最少催行人数2名)

申し込み  
岩手県北観光ホームページ、または裏面FAX

企画: 海と高原のまち・ひろの体験交流推進協議会  
国内企画実施: (株)岩手県北観光

企画：海と高原のまち・ひろの体験交流推進協議会

国内企画実施：(株)岩手県北観光 岩手県北観光旅行業務部112号 (白)企画旅行業協会会員 予020-0124 岩手県洋野町 11-17-18 総合観光振興課管理 相馬高広



## ( 3 ) 地域の事業者との連携

---

- 宿泊施設を通じた販売
  - 宿泊客への現地での販売窓口
  - ガイド付きエコツアー付き宿泊プラン

# 事例20: エコツアー付き宿泊プラン の販売(宮城県気仙沼市唐桑地域)

- 開発したエコツアーの販売方法の一つとして、民宿に1泊した翌日の午前中にエコツアーに参加する「エコツアー付き宿泊プラン」を開発した
- 参加者からの申し込みや料金の支払いは販売主体である民宿に対して行われる
- 情報発信は民宿、ガイドのほか、唐桑町観光協会や気仙沼市などが連携して実施した

**海との絆が根付く町・気仙沼唐桑** 各日程につき

を学び、楽しみ、食す1泊2日

**「唐桑特撰エコツアー」付宿泊プラン**

**10名様  
限定!**

唐桑の魅力を体感できる「唐桑特撰エコツアー」が  
セットになった宿泊プランです!

**日程・ツアー内容** 2015年

**第1回** **11月28日(土)~29日(日)**  
**鮎立まち歩き**~カツオ漁が育んだ海の文化~  
気仙沼湾に面した鮎立(しびたち)地区は、かつてカツオ漁で栄え、ユニークな文化が育まれた場所。鮎立生まれ、鮎立育ちの語り部がご案内します。(ガイド: 鈴木美子さん)

**第2回** **12月5日(土)~6日(日)**  
**岩場トレッキング**  
唐桑のシンボル、巨釜(おおがま)の折石(おれいし)。写真などではよく見るけれど、隣近に見たことは意外とない! ?フチロッククライミング体験で、三陸のリアス海岸を体感しましょう!(ガイド: 千葉正樹さん)

**第3回** **12月12日(土)~13日(日)**  
**歩こう! リアス唐桑・冬の海岸線** 旬の海の幸も満喫!  
半島の先端部、御崎(おさき)から海岸線沿いのガイドウォーク。木々の葉が落ちて、美しいリアス海岸の景色がクリアに見えるのはこの時期ならではの、津波で打ち上げられた津波石も訪ねます。(ガイド: 三浦正和さん)

**料金(各日程)**

**お一人様、税込み** **9,900~10,900円**

含まれるもの: 唐桑料(1泊2食付)、エコツアーガイド料、保険料 ※写真等は全てイメージです。

**民宿 さかや**

MAIL: [karakuwa.sakaya@gmail.com](mailto:karakuwa.sakaya@gmail.com) TEL: 0226-34-3520

WEB申込フォーム: <https://ws.formzu.net/fgen/S58244155/>

※エコツアーの内容に関する問い合わせ  
唐桑町観光協会(担当: 熊谷) TEL: 0226-32-3029

# 參考資料

---

# 6地域における 年間の主な活動スケジュール例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通常の受け入れ												
実践の繰り返しを通じたOJT (イベント的な受け入れ)	準備・ 広報	エコツ アー週 間 (GW)	企画	準備・ 広報	エコツ アー週 間 (夏)	企画	準備・ 広報	エコツ アー週 間 (秋)				企画
各種研修機会を通じた能力向上			地域資 源に関 する勉 強会				先進地 研修			ガイド 講習会		
その他	年間計 画の確 認			関係者による協議・振り返り(随時)								次年度 の事業 計画検 討

# エコツアー実施に関係する主な法令

関係法令	注意を要する場合 該当するかどうかは関係当局に確認が必要	必要な対応
旅行業法	エコツアー参加者に対して宿泊や運送サービスを手配する場合	観光庁長官の登録
道路運送法	自動車を使用してエコツアー参加者を運送する場合	国土交通大臣の許可
海上運送法	船舶を使用してエコツアー参加者を運送する場合	国土交通大臣への届出
遊漁船業の適正化に関する法律	船舶を使用してエコツアー参加者に漁場で体験をさせる場合	都道府県知事の登録
食品衛生法	エコツアー参加者に食事を提供する場合	都道府県知事の許可